

構造部門（基礎構造） ―パネルディスカッション

合理的な小規模建築物基礎の設計とは ―小規模建築物基礎設計指針の改定に向けて

[資料あり]

9月12日（火）13:30～17:00 オンライン 第B室

司会 田村修次（東京工業大学）

副司会 渡辺佳勝（大和ハウス）

記録 松谷裕治（積水ハウス）

基調講演 裁判事例から考える建築士の法令順守とリスクコミュニケーションの重要性

秋野卓生（匠総合法律事務所）

1.主旨説明 酒匂教明（日本大学）

2.主題解説

①小規模建築基礎設計における設計クライテリア

権田将也（三井ホーム）

②地盤調査と地盤評価

高田 徹（設計室ソイル）

③沈下障害の事例と小規模建築物の沈下予測方法

二川和貴（積水化学工業）

④液状化の評価と対策におけるリスクコミュニケーション

三辻和弥（山形大学）

⑤小規模建築物で定義される地盤補強とは

品川恭一（一条工務店）

3.討論

4.まとめ 余川弘至（中部大学）

「小規模建築物基礎設計指針」（2008年版）が刊行されてからおよそ15年が経つ。その間、同指針は小規模建築物の分野で重要な役割を担い、結果として不同沈下などの瑕疵による事故は減少傾向となった。小規模建築物では小さな応力の領域で沈下等の問題が起こることが多く、一般建築物と同等の地盤調査法や沈下の検討方法では問題の解決にならない。また、コストや敷地の広さなどの制約により調査にしても対策工事にしても選択肢が限られてくる。一方、以前に比べ小規模建築物は軟弱地盤や人工造成地上に建つことが多くなり、

地盤品質の見極め、沈下リスクの評価、液状化の情報提供、合理的な地盤補強の設計など、豊富な経験と判断力が要求される中で、経済性が最優先にされがちな小規模建築物の安全性能を一定の水準で保つ必要がある。以上の背景を踏まえ、小規模建築物基礎設計指針小委員会では、同指針の改定作業が進められてきた。

本パネルディスカッションでは、指針改定内容の紹介を兼ねて、「合理的な小規模建築物基礎の設計とは」というテーマで討論を行う。はじめに、基調講演により過去の裁判事例の紹介を通して、設計者側が遵守すべき注意義務を確認したうえで、改定ポイントの一つであるリスクコミュニケーションの活用をイメージしてもらう。次に、主題解説により改定予定の主だったものを 5 つの項目に絞って紹介する。以上の話題提供をもって、参加者に改定に対しての意見を広く募りながら、合理的な小規模建築物基礎設計についての議論を深める場としたい。